

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

公開実用 昭和63- 49768

⑩日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭63- 49768

⑬Int. Cl. *

H 01 R 9/05

識別記号

厅内整理番号

B-6901-5E

⑭公開 昭和63年(1988)4月4日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮考案の名称 同軸ケーブル保持金具

⑯実 願 昭61-142866

⑰出 願 昭61(1986)9月17日

⑲考案者 島田 和男 群馬県邑楽郡大泉町大字坂田180番地 東京三洋電機株式会社内

⑳出願人 三洋電機株式会社 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

㉑代理人 弁理士 西野 阜嗣 外1名

從來、同職力一>凡之基板化保持力及技術上之
乙側之實驗公報 50-27591 號等之報告亦記
乙部)、該技術化之基板同職力一>凡之先端化乙

(四) 未来的趋势

本考案以回轉力一力及基板回轉力回轉
力一力保持金具回轉力由由回轉力。

蘇文忠公集卷之二

3. 考察の難易度と誤解

器并金具。

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 素数的名称

四 番

ンプラグを結合し、該ピンプラグをチューナー用基板等に結合されたピンジャックに差し込むことにより、所定信号の伝送が可能となされていた。

第5図は従来の同軸ケーブル保持技術を示す側面図であり、(1)は、中心線(2)、絶縁樹脂(3)、シールド線(4)、及び絶縁被覆(5)より成る同軸ケーブル、(6)は針金、(7)は、挿入孔(8)(9)(10)、アース箔(11)(12)、及び導電箔(13)を有するプリント基板、(14)は半田である。該技術によれば、シールド線(4)に巻回されると共に半田(14)にて結合された針金(6)を挿入孔(8)(9)に挿入すると共に、中心線(2)を挿入孔(10)に挿入し、針金(6)及びアース箔(11)(12)を半田(14)にて結合することにより、基板(7)に対する中心線(2)の高さが一定値に保持される。そして中心線(2)及び導電箔(13)を半田(14)にて結合することにより、所定信号の伝送が可能となされていた。

4) 考案が解決しようとする問題点

しかしながら前者の場合、同軸ケーブルにピンプラグを結合すると共に基板にピンジャックを結合することから、ピンジャックに対するピンプラ

グの抜き差しは可能であるが、コストアップすると共に作業性が低下する問題点があった。

また後者の場合、針金(6)及びアース箔(11)(12)を半田(14)にて結合するまでの作業数が多いことから作業性が低下し、更に同軸ケーブル(1)が針金(6)にのみ保持されて不安定であることから、基板(7)に対する中心線(2)の高さを一定値に保持することが困難となり、従って他の電子部品を同軸ケーブル近傍に配置できなくなって装置の小型化が困難となる等の問題点があった。

(二) 問題点を解決するための手段

本考案は前記問題点を解決するためになされたものであり、一面側に設けられ、それが前記一面を対向させる方向に折曲した際に同軸ケーブルのシールド線を把持する把持部と、該把持部の両端から他面側に設けられ、それが前記一面を対向させる方向に折曲した際に基板の挿入孔に挿入保持されて接地されると共に、前記基板に結合される前記同軸ケーブルの中心線の高さを一定値に保持する一対の爪部より構成される。

特 作 用

本考案によれば、同軸ケーブルのシールド線を同軸ケーブル保持金具の一面側中央に近接させた状態で、前記一面が対向する様に同軸ケーブル保持金具を折曲すると、シールド線は一对の把持部にて把持される。更に折曲した同軸ケーブル保持金具を基板の挿入孔に挿入すると、同軸ケーブル保持金具は一对の爪部によって挿入保持され、基板に結合される同軸ケーブルの中心線の高さが一定値に保持される。

△ 実施例

本考案の詳細を図示の実施例により具体的に説明する。

第1図は本考案の同軸ケーブル保持金具の一実施例であり、同軸ケーブルに対する折曲以前の状態を示す斜視図、第2図は第1図の同軸ケーブル保持金具が基板の挿入孔に挿入保持される以前の状態を示す分解斜視図、第3図は第1図の同軸ケーブル保持金具が基板の挿入孔に挿入保持された状態を示す側面図、第4図は他の実施例の同軸ケーブル保持金具の斜視図である。

其形狀之大小者也。更以第2圖之示于機械折曲之
接合處，確實以圓軸為一對之保持金具(即接合處)
之一端之接頭(4)之一對之接頭部(16a)(16b)而以把
子一對之保持金具(即之A及之B方向之折曲子之)
近接合處之圓軸上，前配一面板以對向于機械折曲
之接頭(4)之圓軸上一對之保持金具(即之)一面側中央之
第1圖之示于機械折曲上一對之(17)之另一
之對子之。接頭。

第5圖之圓一塞子以對一圓孔
上基板之處之處、第5圖之圓一塞子以對一圓孔
之處、下一大箱之處、及以導電導線之處有子之處之
處(即有子之處之圓軸上一對之保持金具、(即以導入孔之
處)、前配一對之頂部(17a)(17b)、及以包頭部
之保持金具、(18)之、前配一對之接頭部(16a)(16
b)之處、一面側之導力之折曲上之圓軸上一對
之他面側之導力之折曲上之圓軸上一對之頂部(17a)(17
b)、前配一對之接頭部(16a)(16b)之兩端之處之
處(即以導入孔之處之圓軸上一對之接頭部(16a)(16
b)、第1圖～第4圖之處之處、(即)之、之一面側之
之接頭之處之處。

一對之保持金具之基板之導入孔之導入之處以前

本考案以正其誤、一面側以證其正，考証力前
記一面究其向之失之方，向以折曲之尤深也，向
考之以正其誤、一面側以證其正，考証力前

毒藥的效果 (4)

၁၇၃

第十九圖 4 圖化示可擴化、包照部分之有才子同嘲笑
為一才子深持金貝(即乞用之)、同嘲笑之才子(即才
才子傳奇)之傳奇路。才子一才子同嘲笑之才子(即才
才子傳奇)之傳奇路。

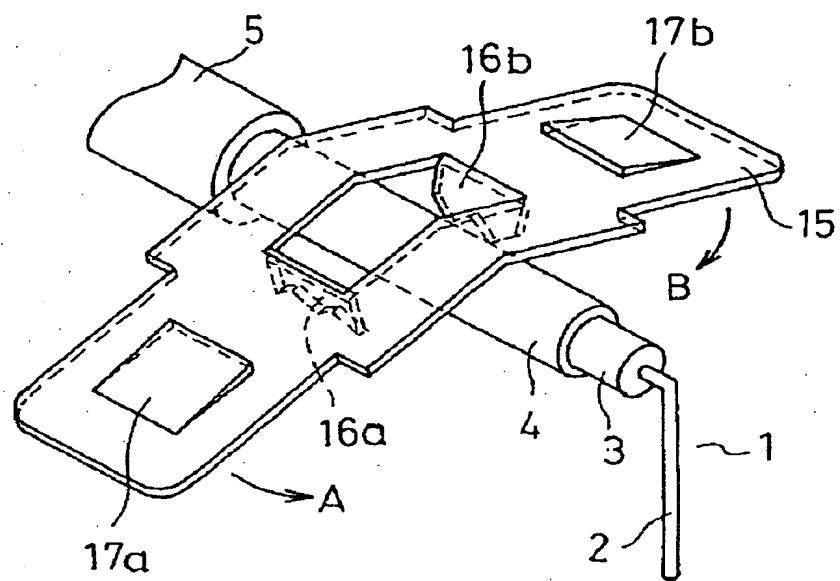
4. 圖面の簡單な説明

ルド線、 (15a)…同軸ケーブル保持金具、
(16a)(16b)…把持部、 (17a)(17b)…爪部、
(20)…基板、 (21)…挿入孔。

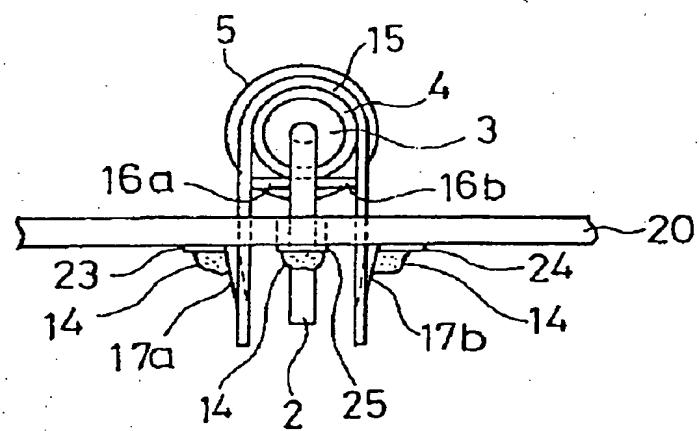
出願人 三洋電機株式会社 外1名

代理人 弁理士 西野卓嗣 外1名

第1図



第3図

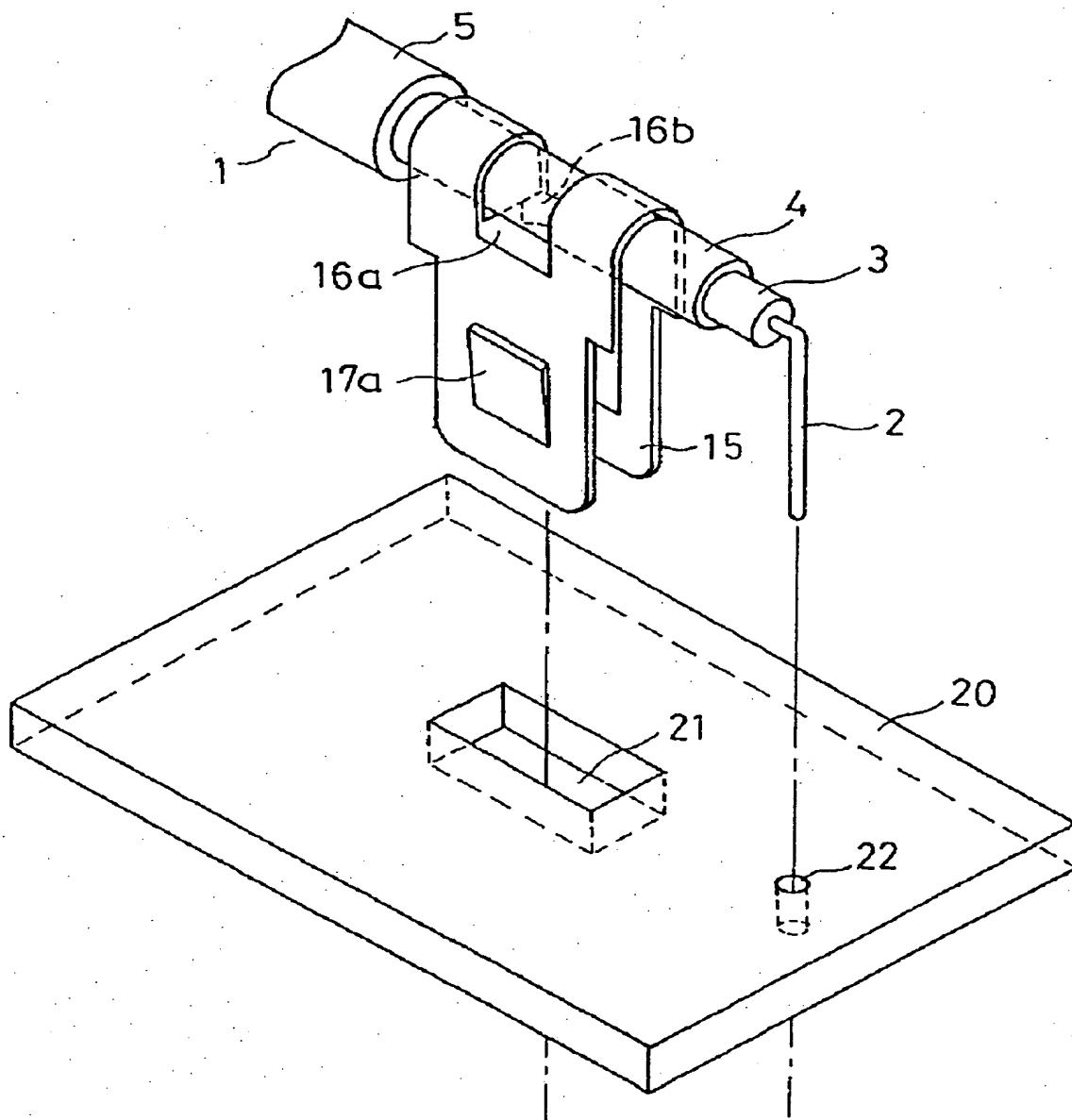


791

出願人 三洋電機株式会社

代理人 弁理士 佐野静夫
西野卓嗣 外

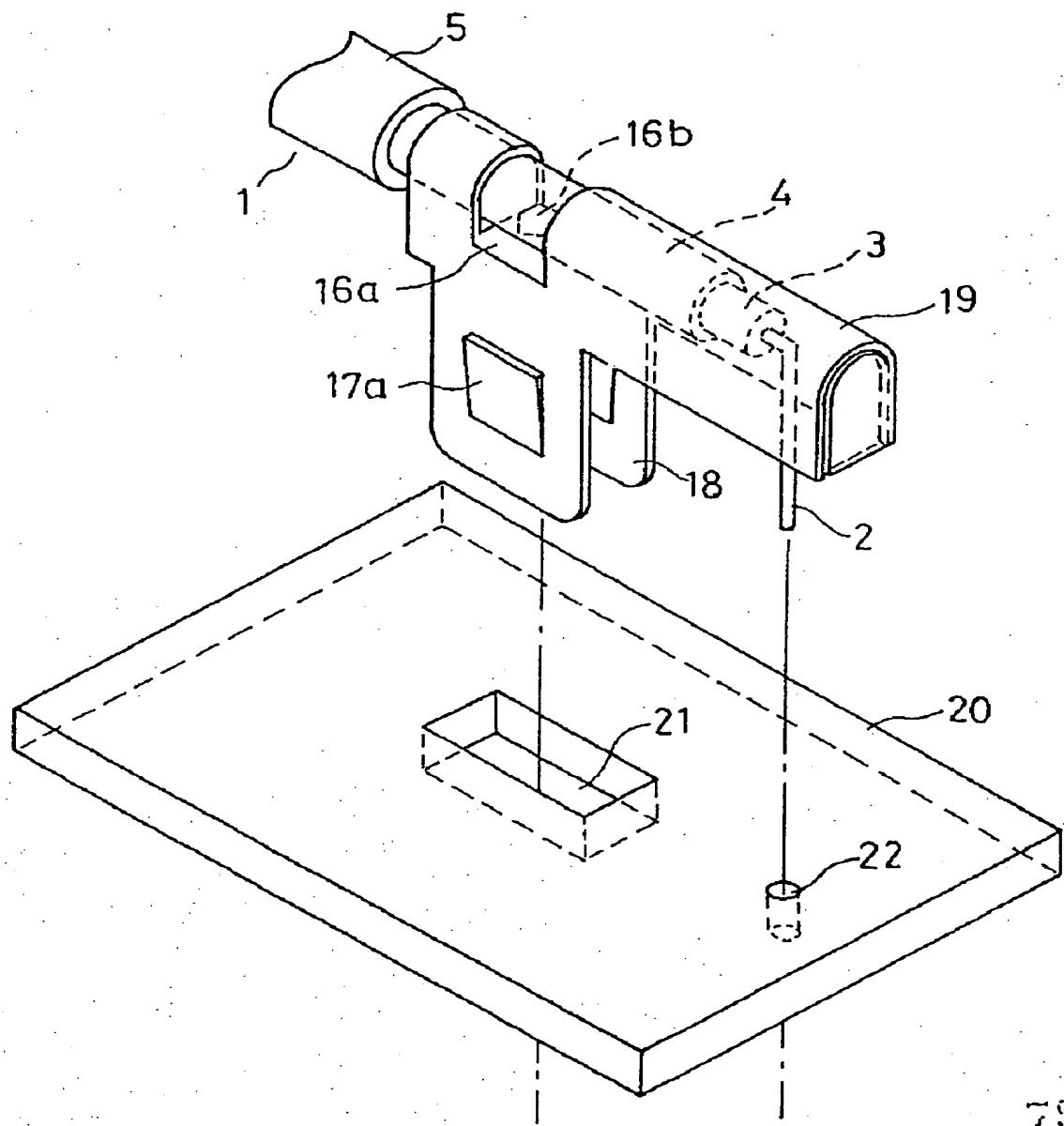
第 2 図



792

出願人 三洋電機株式会社
代理人 弁理士 佐野静夫
西野卓嗣 外
外
外

第4圖



793

出願人 三洋電機株式会社
代理人 弁理士 佐野 静夫
西野卓嗣 外1名

代理人 奥里士 奥士顿
出题人 三洋電機株式会社
西野卓嗣外1号

194

